

中国高速列車の町 青島・城陽区

下関市総合政策部国際課

国際交流員 郝 彩霞

メッセ通信をお読みの皆様、こんにちは！私は、中国青島市から国際交流員として下関市総合政策部国際課に勤めている郝 彩霞（かくさいか）と申します。今回は、私の故郷である城陽区についてお届けします。城陽区は皆様にとってあまり見覚えがないところだと思います。そんな城陽区について大きく四つの視点からご紹介していきます。

あなたが知らない城陽区

ポイント① 青島流亭国際空港の所在地

城陽区は青島流亭国際空港の位置するエリアです。青島の中心地の北側に位置し、「青島の玄関口」と呼ばれるほどアクセスが便利なところ。要するに、多くの海外のお客様にとって青島を訪れた際の最初の第一歩！それが城陽区です。2018年、青島流亭国際空港の旅客数は初めて2450万人を超えました。

ポイント② 外資系企業の集積地

1989年に、山東省最初の外資系企業である韓国企業が城陽区に進出したことに伴い、城陽区は青島市ひいては中国の外資誘致の理想地として持続発展しています。今まで累計では、53の国と地域から5000社余りの外資系企業が城陽区に進出してきました。「中国長江の北側にある外資系企業の一番の集積地」とも言われています。そのうち、累計登録日系企業は300社を超えて、青島市全体の日系企業数の内半分を占めています。住友や伊藤忠、丸紅、双日、王子製紙、レンゴーなど代表的な日系企業が投資した生産工場も数多くあります。90年代後

半、城陽区は住友商事グループと提携して山東省初の日系企業専門工業団地を開発し、今では経営して20年を超える日系企業が多数あります。

ポイント③ 中国の高速列車の町

高速列車は今では中国の1つの重要な名刺として、世界中に広がっています。「新幹線」と同じように快適で、中国の近代化の象徴の一つとして欠かすことができません。そのように中国の夢を担う高速列車はどこで研究開発、生産されたのでしょうか？答えは、城陽区です。中国中車グループの重要な生産基地と研究開発センターは城陽区に位置しています。毎年城陽区で約65%の高速列車、そして25%の地下鉄車両が作られています。2016年には、中国初の「国家高速列車技術イノベーションセンター」が城陽区に設立されました。現在、青島世界高速列車タウンというプロジェクトを重点的に推進し、研究開発や生産、アフターサービス、VR体験などを一体とする軌道交通産業の専門団地を目指しています。



▲ 高速列車の生産現場

ポイント④ 日韓輸入製品博覧会の主催地

2018年11月16日～19日にかけて、青島市初の「日韓輸入製品博覧会」が城陽区で成功裏に開催されました。日中韓三カ国は一衣帯水の隣国として、日本と韓国は青島市の重要な貿易パートナーであり、青島市の日韓二カ国との年間貿易取引額は約150億米ドルです。日本、韓国および中国台湾地区から1500社を超える企業が、食品や日常用品などを中心に多分野において約2万点ほど出展し、4日間で来場者は18万人にも上り、取引総額は30億人民元（およそ480億円相当）に達しました。博覧会の中、「日韓輸入製品貿易港」を設立し、1000社余り

の企業が登録しました。これにより、今後城陽区が世界に向け、日本・韓国とさらに手を取り合い、経済貿易の往来を新たな段階へ押し上げる重要なプラットフォームとなるべく期待されています。

経済が発展するにつれて、城陽区は暮らしの中の利便性が向上する「健康かつ活気が溢れる住みやすい町」を目指し、今後とも青島市の重要な地区として、両市の友好交流の絆になるよう願っております。



▲ 日韓輸入製品博覧会の様子